正しい知識をもって薪ストーブを使用していますか

帯広市消防本部

近年、薪ストーブは環境低負荷や灯油価格の高騰などにより、新築時に暖房器具として選択する家庭や石油ストーブから取り替える家庭が見られるようになってきました。確かに、薪ストーブは良い暖房器具なのですが、正しい知識をもたないまま使用することは、非常に火災のリスクが高くなります。薪ストーブの周辺に燃えやすいものがあって火災になることも当然なのですが、火災の多くは煙突火災によるものです。

発生するメカニズムは、燃焼による煙がクレオソートとなり煙突内に付着し、これに引火することにより起こるとされています。クレオソートが付着しやすくなる条件として、低温での長時間燃焼、乾燥が不十分な薪の燃焼、急激に煙の温度が下がりやすいシングル煙突の使用があります。また、正しく薪ストーブを燃焼させていても、長年煙突清掃を怠っていますと、同様に煙突火災を発生させてしまうことがあります。これらのことを踏まえて、正しい知識をもって薪ストーブを使用するためには次のことに心がけましょう。

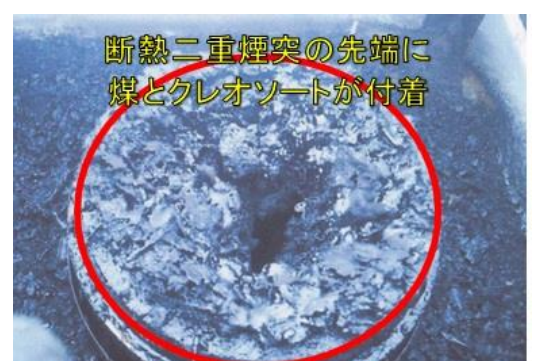
１　取扱説明書を読み正しい使用方法を身に付けましょう
２　十分に乾燥した薪（燃料）を使用するため、水分計などを使用し薪の状態を管理しましょう。
３　シーズンオフには煙突の清掃を行い煙突内や煙突貫通部の状態を確認しましょう
４　取扱方法に不安がある、煙突清掃が出来ない、知識がないなどの場合は、専門家に相談しましょう

煙突の貫通部分について

帯広市火災予防条例第２３条により、煙突と周囲の壁や建物を構成する木材などは一定の距離が必要と定められ、外壁貫通部分など距離が保てない場合には、金属以外の不燃材料でおおい遮熱することとされ、一般的には「めがね石」を使用します。もし仮にめがね石が設置されていなければ周囲の木材が炭化している可能性があります。炭化とは、熱を加えられた木材から水分が蒸発し「炭」になっている状態をいい、直接の火種がなくても発火してしまう温度は、約４５０℃だったものが約１５０℃に変化すると言われています。実際に設置されているか、設置されているが周囲の木材に変色がないかなど、煙突を外さないと見えないことがほとんどだと思いますので、煙突の清掃とあわせて確認するようにしましょう。また、めがね石以外でも帯広市火災予防条例に適合する様々な施工方法や製品があり、設置基準が異なる場合がありますので、不安がある場合は専門家に相談することをお勧めします。

参考（帯広市内の専門業者より提供された写真）

めがね石は設置されていたが、内装に使用された木板と煙突が接していたため炭化している。

サイディングのリフォームの際に打ち付けたと思われる胴縁が煙突と接していたため炭化している。

煙突の中で、煙の温度が最も下がる場所であるため、煤やクレオソートが付着している。十分乾燥した薪や燃焼温度管理により付着は防ぐことができる。この状態で使用を続けると、室内に煙が漏れることや、場合によっては煙突火災となることもあります。